

J-MICC Study に関する意見

J-MICC Study 主任研究者 浜島信之先生

2006.8.24

研究モニタリング委員会:岡山、黒沢、中山、武藤、山縣
社会的諸問題検討委員会・丸山、織井、佐藤、玉腰、増井、松井

研究計画・手順などに関し、J-MICC Study として参加する場合の一定の質を保障するシステムが必要である

- そのため、研究開始をどのような形で誰が決めていくのかを明らかにしてほしい

複数の施設が集まっているメリットを生かし情報共有をするとともに、J-MICC Study の質を保つために一定の要件を満たすサイトが参加する仕組みが必要である

- そのため、テストランに、研究モニタリング委員ならびに他サイト(既に開始しているサイト)研究者が参加し、研究実施体制を具体的に確認する場としてほしい
- テストラン、サイト研修の手順書を定めてほしい

研究の質を保つために情報収集が必要である

- そのため、研究進捗状況を定期的に、中央事務局に報告する体制作りをしてほしい
- その情報を定期的に、関係組織に報告し、問題点を確認する体制作りをしてほしい

計画書・手順書が遵守されているかどうかのモニタリングが必要である

- そのため、研究実施状況は上記報告書で確認すると同時に、抜き打ち的に社会的諸問題検討委員会委員ならびに他サイト(新たに立ち上げるサイト)研究者が訪問する形としてほしい

運営委員会の下部組織として小回りのきくワーキンググループを設置し、具体的な問題を検討する場が必要である

- そのため、研究連絡・追跡検討・検診体制検討のためのワーキンググループを早急に設置し、よりよい形で J-MICC Study が実施されるよう体制作りを行ってほしい

長期にわたり J-MICC Study を実施するため、士気を維持するとともに常に一定の質を保つ努力が必要である(単に細かく規制されてしまったと捉えると全体の統一がとりにくく、結果的に研究の質が落ちることが懸念される)

- 改めて、J-MICC Study として研究を行うことのメリットを全体で確認してほしい